

～これからを笑顔で楽しく生きるために～

1 1期 アクティブシニアをめざす

日 時：2024年1月25日（木）

場 所：豊中市地域共生センター

午前の学習テーマ：多文化交流を聞く

講師：箕面市国際交流協会 河合様

午後の学習テーマ：ひとりぼっちをつくらない

講師：豊中市社会福祉行議会 勝部様

河合さんは、授業の冒頭に、受講生を4人の小グループに分けて、各自の今日の元気度を紙に書いて、4人で話し合ってくださいと言われました。

次に、異文化を感じた体験をそれぞれが披露して、各グループで出した内容をクラスで発表しました。自然な流れで授業内容に導かれました。

箕面市の外国籍住民は、2%くらい。

箕面市は、大阪大学の留学生が多いから。

家族の留学に伴って日本に来て、言葉の壁・制度の壁・この壁（3つの壁）により自分の居場所を見つけられない方の話を聞きました。

本来、本国では自分を生かす仕事があったにも関わらず、3つの壁で自分を見失う人。

日本語がはなせなくて、活躍の場がなくなっている人が、食事作りならできる、と立ち上げたのが、箕面市国際交流協会にある「comm café」とか。

[comm cafe \(コムカフェ\) - mafga](#)

まずは、お茶を飲んで、食事をして、会話をして、お互いを知ることから始まる国際交流ですね。

午後からは、待望の授業でした。

豊中市社会福祉協議会 勝部麗子さん

ひとりぼっちをつくらない

～すべての人に居場所と役割を～

阪神・淡路大震災を期に、豊中市では、小地域福祉ネットワーク活動開始。
その後、小学校区ごとに福祉委員会を設置。見守り・声掛け・サロン活動が始まる。
ことわらない福祉をめざして、縦割り行政のはざままで、取り残される人たちにかかわってこられてそうです。

活動の一部です。

定年退職後などの男性を中心とした社会参加の場(空き地を使った畑)を使って、地域と野菜の担い手づくりを行ってきました。「豊中めぐり」岡町菜園近くの篤志家の方から空き家を無償で提供いただいたことから「豊中めぐり」の活動にプラスしてさらに地域共生連携拠点として運営する場所「和居輪居」ができました。

広くて心地よい部屋で、人が集まり・集うことができます。

わいわい食堂・オレンジカフェ・洋裁教室等いろいろなイベントの拠点になっているそうです。

最後に、勝部さんが、「皆さん、お鍋を焦がしたことがありますか？」と問いかけ。

手を挙げる人、多数。

「安心して、ボケてください。何とかします。」と授業を締めくくりました。